

## 部位説明



●操作パネル  
点火スイッチを押し、ガス開閉バルブを開くと着火。ガス供給バルブを閉じると炎が収まります。



●燃焼トレー  
水中バーナー方式により、実際の火災に似た燃焼状態を作り出します。



●コンパクト  
操作スタンドと燃焼トレーを一体にして運搬、収納を可能にしました。



●操作スタンド  
燃焼トレーにホースで接続しガスを供給します。市販のプロパンガスを使用しています。

## オプション品



消火訓練用放射器具  
(テスター7)



コンプレッサー



エアチャックセット (8m)

## 装置仕様

品名	消火体験装置 (Kesuzo)
形式	STS-3000
燃料	プロパンガス ※必ず8kg以下のボンベをご使用下さい。 ※プロパンガスのボンベは付属されておりません。
使用圧力	0.02MPa
使用消火器	訓練用 水消火器
電源	1.5V (単1乾電池)
使用時間	15秒連続燃焼で約160回 (8kgプロパンガスボンベ 圧力0.02MPa 使用時での自社試験による)
装置重量	操作スタンド 約12kg (プロパンガスボンベは除く) 燃焼トレー 約9kg
装置寸法	操作スタンド W300mm × D415mm × H950mm 燃焼トレー W950mm × D250mm × H253mm

### 商品に関するお申し込み、お問い合わせ先はこちら

お申し込みは早くて便利なお電話で!



**(045)482-9513**

TEL 受付時間 月~金: 9:00 ~ 17:30



(045)482-9514

FAX



<http://www.ilius.jp/>

ホームページ



[ide@ilius.co.jp](mailto:ide@ilius.co.jp)

Email

**ilius**  
イリオス株式会社

〒225-0021  
神奈川県横浜市青葉区すすき野 2-7-6  
阿部ビル1F B

キャラクター・トータルデザイン: PLANET・ZORCH 鯉沼 薫

### 販売代理店

ilius

火災に似た燃焼状態を作り、消火を体験する装置

消火体験装置



**Kesuzo**

STS-3000

特許出願中





# 本物の火だから感じる熱さと怖さ。

いざという時あわてないために、リアルなシミュレーションが大切です。

## Kesuzo STS-3000 の特長

### リアルな消火シミュレーション

STS-3000 は実際の火災に似た燃焼状態を作り、消火を体験する装置です。

火災発生時に慌てないためには、実際の炎を消火するシミュレーションが重要です。

### 簡単操作

- ・点火スイッチとガス開閉バルブで操作できます。
- ・水とガスを使用する装置ですので、準備や片付けに手間がかかりません。

### 安心設計

- ・ガス開閉バルブを閉じるとガスの供給が止まり、自然に燃焼が停止します。
- ・点火には単1乾電池を使用していますので、電源の無い場所での使用が可能です。

## 各部名称と操作手順



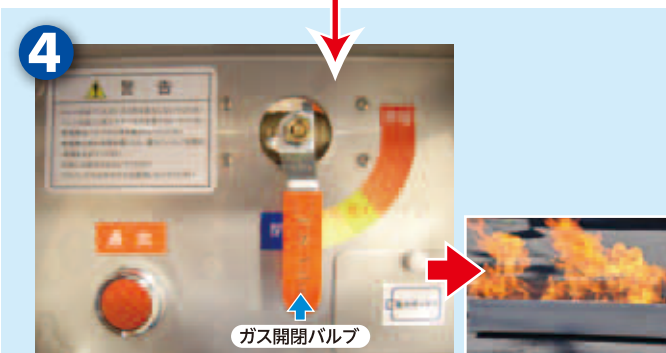
1 固定ベルトを外し、燃焼トレーを取り外します。



2 プロパンガスボンベを操作スタンドへ乗せ、圧力調節器を接続します。



3 燃焼トレーへガス供給ホース及び点火ケーブルを接続し水を入れます。



4 プロパンガスボンベのバルブを開け、点火スイッチを押しながらガス開閉バルブを開けます。

## Kesuzo STS-3000 を体験



市民の自主防災訓練

## ユーザーの感想

神奈川県川崎市 宮前消防署 副署長

より実践に即した訓練が可能となり訓練度も上がっています。

今までの訓練だと、的に向けて水消火器の水をかけた後、模擬的な炎に向けて、消火器に似た器具からレーザーを当てたりしていたので、どうしてもゲーム感覚になってしまいがちでした。しかし実際に、地域の小・中学校・町内会・自治会などの訓練で装置を使用し、参加した方々も実際の大きな火と向き合う事で「熱さ」や「怖さ」を直に体感することができよ訓練になると好評です。

神奈川県横浜市 中消防署 予防課職員

訓練参加者からの評判も良く、女性参加者からは特に好評を得ています。

消火体験装置は水道水を使用しているだけなので、後片付けも簡単で、周辺住民への影響や環境にも配慮されているため、安心して使用できます。訓練終了後に、口コミで消火体験装置の事を知った管内の企業や自治会・消防団などから、訓練時の使用依頼が多数寄せられております。

神奈川県横浜市 青葉火災予防協会 会長

大きな火を間近で見ることにより、火の「熱さ」・「怖さ」を体感することができます！

訓練に参加した人たちの真剣さが従来の訓練とは明らかに違います。特に一生懸命なのは主婦の方たちで、家庭内での火災を意識して真剣に訓練に参加してくれました。

神奈川県横浜市 青葉消防署 予防課長

実際の火を使用しているのが、今までの消火訓練と違って訓練に臨場感ができました。

消火体験装置を使用することで、火を消すには火のどこに水を掛ければ消えるのかを教える事もできます。参加者がそれを体感することもできます。消火訓練の参加者の反応も良く、真剣に訓練に取り組んでもらえます。

